



令和 3 年 7 月 30 日

## 原爆の日に関連した広島大学主催行事について

76 回目の原爆の日を迎えるにあたり、広島大学の関連行事をご案内します。

8 月 6 日に、広島大学原爆死没者追悼式を東千田キャンパスで開催します。広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中に原子爆弾に被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるために執り行うものです。

今回は新たに 19 人を書き加え 2, 041 人となった原爆死没者名簿を奉納します。

また、死没者追悼式の後に、平和企画および広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター（仮称）署名式、記者会見を実施します。今年度の平和企画は、映画「この世界の片隅に」で監督を務めた片渕 須直（かたぶち すなお）氏に「76 年前と 1021 年前のあいだで—非常事態で働き場所を得た女性たちのその後—」と題してご講演いただきます。

続いて、広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター（仮称）署名式および記者会見を、駐日エジプト・アラブ共和国大使館 アイマン アリ カーメル特命全権大使出席の下執り行います。

続いて、これまでの平和企画でバイオリン、ピオラを制作しましたが、今年度、被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木等を素材としたチェロを制作したので、お披露目を行います。

最後に、本学教員・学生による平和祈念ミニコンサートを開催し、平和を想う場とします。

### 【お問い合わせ先】

財務・総務室広報部

広報グループ

TEL : 082-424-3701 FAX: 082-424-6040

令和 3 年 7 月 30 日

8 月 6 日に広島大学原爆死没者追悼式および  
広島大学平和企画を実施します

本学では、広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中、広島に投下された原子爆弾により被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるため、下記のとおり原爆死没者追悼式を執り行います。また、同日広島大学平和企画を実施します。

なお、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の対策および熱中症対策のため、参加人数を制限し、開催いたします。また、参加者にはマスク着用の上、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で実施いたします。

記

(1) 広島大学原爆死没者追悼式

日 時： 令和 3 年 8 月 6 日(金) 午前 10 時開式

場 所： 広島大学東千田キャンパス内  
「広島大学原爆死没者追悼之碑」前  
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

式次第： 開式の辞  
原爆死没者名簿奉納  
黙とう  
追悼の辞  
献花及び献水  
閉式の辞

※今回新たに確認された死没者 19 人を書き加えた原爆死没者  
名簿(記載数 2,041 人)を奉納

<参考>

閉式後、引き続き、「原爆死没者遺骨埋葬の地碑」(東千田キャンパス内)に、広島文理科大学および広島高等師範学校の関係者による献花および献水を執り行います。

(2) 広島大学平和企画及び広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター(仮称) 署名式/記者会見

広島大学平和企画 「芸術から平和を想う」

日 時：令和3年8月6日(金) 10:45~12:45

場 所：広島大学東千田未来創生センター4階 401, 402  
(広島市中区東千田町一丁目 1番89号)

【概 要】

越智光夫学長挨拶

第Ⅰ部 平和センター講演会 10:50~11:45 ※別紙1参照

「76年前と1021年前のあいだで——非常事態で働き場所を得た女性たちのその後——」

講演者：監督 片渕須直氏

映画「この世界の片隅に」/「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」

広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター(仮称) 署名式及び記者会見  
11:50~12:05

H.E.Mr. Ayman Aly Kamel Mr.アイマン アリ カーメル 閣下  
駐日エジプト・アラブ共和国大使館 特命全権大使

第Ⅱ部 被爆樹木を素材とした楽器の披露 12:10~12:20

被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木を素材とした楽器(チェロ)を制作し、披露する。

1. 企画説明(国際室 嘉陽研究員) ※別紙2参照
2. 被爆樹木チェロの披露

第Ⅲ部 本学教員、学生による平和祈念ミニコンサート 12:25~12:45

広島大学教育学部第四類音楽文化系コースの教員・学生が演奏を行い、平和を祈念する。

1. 演目等解説(教育学部 高旗教授)
2. 教育学部第四類音楽文化系コース教員及び学生による演奏(3曲程度)

\* 演奏では、被爆樹木を素材としたチェロ、バイオリン、ビオラを使用

【お問い合わせ先】

(原爆死没者追悼式について)

財務・総務室財務・総務部総務グループ 谷、松井  
TEL:082-424-6032 FAX:082-424-6020

(平和企画について)

第Ⅰ部……………平和センター 事務室

下手(しもて) TEL:082-542-6975  
FAX:082-245-0585

エジプト関係

国際室国際部グローバル化推進室

梅下(うめした) TEL:082-424-6046

第Ⅱ・Ⅲ部…国際室国際部グローバル化推進グループ

長谷川（はせがわ） TEL:082-424-6046

嘉陽（かよう） TEL:082-424-4566

FAX:082-424-6179

別紙1

2021年7月13日

広島大学平和センター

【平和企画 第I部 平和センター講演会】

講演者： 監督 片渕須直氏

演題：「76年前と1021年前のあいだで——非常事態で働き場所を得た女性たちのその後——」

片渕監督によるご講演内容：

「すずさんは戦時中の家庭の主婦でした。しかし、同じ頃、戦時中という非常事態の中にあつたがために、職業につくことになった女性たちもいました。たとえば、8月6日原爆の日の朝にラジオの防空放送を担当していたのは女性アナウンサーでした。そうした人たちはその後職を失うこととなります。何が起こったのでしょうか。

また片渕の次回作では、およそ1000年少し前の時代に女性として職をもっていた清少納言が登場します。彼女の職業意識にも触れつつ、お話してみたいと思います。」



片渕監督は、1996年『名犬ラッシー』で監督デビュー。2001年に初の映画『アリーテ姫』が公開される。2009年に『マイマイ新子と千年の魔法』で、文化庁メディア芸術祭アニメーション部門（優秀賞）を受賞した。2016年公開の『この世界の片隅に』は、日本アカデミー賞（最優秀アニメーション作品賞）を受賞、第67回芸術選奨では、多くの観客に感動を与えたことが評価され（文部科学大臣賞（映画部門））を受賞した。また、2017年には

世界4大アニメーション映画祭の一つであるアヌシー国際アニメーション映画祭において、〈長編部門審査員賞〉を受賞し、日本のアニメーション監督に希望を与えた。『この世界の片隅に』は、広島に暮らす少女「すず」さんが、知り合いもない呉に嫁ぎ、少しずつ居場所をつくりながら、貧しい生活の中で小さな喜びを見出していく過程と、戦火の中で大切なもの、愛する人々を失いながらも常に前へ進んでいく姿を描いている。一般市民の生活の目線から、戦争と原爆を描いたことで、「戦争もの」の映画に新風を吹き込んだ。原作はこの史代氏による『この世界の片隅に』である（双葉社）。同作のロングランを受けて、戦時下を生きる女性たちの心の奥に秘められた思いを描き出したもうひとつの映画『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』を2019年に公開した。現在は女性の生きかたをテーマに新作を制作中である。

実は、『この世界の片隅に』は、クラウドファンディングによって出資を募り、制作に至った作品である。ファンに支えられ、片渕監督自身も資金難や数々の挫折を味わいながらも本作品の完成にこぎつけたという。「逆境を乗り越える映画監督」という異名もある。口コミとSNSで全国に広がった。作品の素晴らしさもさることながら、各地での舞台挨拶やサイン会などでも、ファンとの交流をおろそかにしない誠実さは、作品の作り込み方にも現れている。片渕監督は、どのシーンも入念な調査をもとに、登場人物が生活する空間を再現している。時代設定や背景も、街の看板や小道具、流行歌、ことばやしぐさの一つ一つに至るまで、調べ上げた上に実証し確認をする。まさに行動する研究者である。

例えば2011年、『この世界の片隅に』の制作段階で、監督は原爆で失われる前の広島を念入りに調査中、被爆者が記憶だけに頼って描いた『消えた町 記憶をたどり 絵と証言 森富茂雄』（2011年発行）に出会い、編集者のヒロシマ・フィールドワーク実行委員会代表、中川幹郎氏に連絡した。大正屋呉服店（現 レストハウス）限界の場面を描くために、中川氏を通じて当時の様子を知る人に確認を取って描き直すことを繰り返した。翌年2013年には、同実行委員会で森富茂雄さんほか被爆者や当時を知る人々と交流し、その後何度も広島を訪れて、人々の知識と声を、作品の様々なシーンに反映していった。

そして2019年、『この世界の片隅に』が、市民の目線で戦争と被爆の記憶を継承する作品として、各国でも注目される中、フィールドワーク実行委員会から英語版を出版する計画が生まれた。平和センターのファンデルドゥース瑠璃が相談を受けて、日英翻訳と付録地図の作成を担当し、編集に携わった。中川夫妻や森富夫妻、被爆者の方々、市民の方々との協働作業で、2020年8月5日に出版にこぎつけた。関係者全員がボランティアである。広島平和記念資料館と広島市観光政策部には、専門的な助言を頂いた。

付録のクリアファイル用にと、片渕監督は、『この世界の（さらにはいくつもの）片隅に』のワンシーン、大正屋呉服店・大津屋の場面のスチルを、快く提供くださった。これもまた、片渕須直監督らしいエピソードである。



©この史代・双葉社・「この世界の（さらにはいくつもの）片隅に」製作委員会  
「この世界の（さらにはいくつもの）片隅に」より。

\*\*\*\*\*

## 【被爆樹木等を素材とした楽器（チェロ）制作について】

国際室 嘉陽礼文

## ●使用した被爆樹木等について：

## 【被爆樹木】

- ・被爆樹木および被爆者埋葬地に自生していた樹木の材木を使用
- ・被爆樹木は爆心地から約 370m 地点にあるシダレヤナギで、2017 年 12 月の養生作業の際に一部伐採したもの。所有者立会いのもと、許可を得て取得した。
- ・埋葬地樹木は 2018 年 4 月に広島市南区似島の原爆死没者御遺骨発掘作業の際に発掘地の立木を伐採したもので地権者の許可を得て取得した（両樹木ともに使用目的として楽器制作も承諾済み）。
- ・以上の材木を一部に使用して 2019 年にバイオリン、2020 年にビオラの制作実績があり楽器制作に耐えうる素材であることを確認済み。

（バイオリンは本体の側板、背板の象嵌細工、テールピース、あご当て、糸巻、エンドピンに使用した）（ビオラは本体の側板、背板の象嵌細工、あご当てに使用した）

## 【被爆レンガ】

- ・被爆建物のひとつである広島陸軍兵器補給廠（広島陸軍兵器支廠）建物（戦後に本学医学部の 3 号館として使用されていた建物）のレンガ破片が 2020 年 1 月に本学霞キャンパス内の下水道工事の際に発見された。この一部を、楽器本体のネック部分と表板に埋め込み、あわせて、同レンガの粉末を混入したニスを作成し、楽器表面に塗布した。

## ●制作について：

- ・三原バイオリン工房の三原博志氏（イタリア・クレモナ国際バイオリン制作学校にて学ぶ、糸崎在住）に制作を依頼
- ・チェロの一部（側板等）の素材として被爆樹木等を使用、また装飾とニスの素材の一部に被爆建物のレンガ破片を素材として使用し楽器を制作した。

※本来は材木を乾燥させる年数が必要であるため、近年に採取した被爆樹木等のみの素材ではチェロ一挺を制作することが難しい。楽器全体の強度の問題を解消するために、昨年引き続き今回は一部（側板等）の素材に使用して制作を実施した。

## ●チェロ制作で被爆樹木等の材木及び被爆建物のレンガ破片を使用する部位について：

- ・被爆樹木シダレヤナギ ⇒ 背板の象嵌細工（板にはめ込む装飾）
- ・埋葬地樹木エゴノキ ⇒ 側板全体の表面部分（上部・中部・下部の 6 ヲ所）
- ・その他の部分はヨーロッパとカナダからの輸入材（カエデ等）を使用
- ・広島陸軍兵器補給廠レンガ ⇒ 表板の一部、ネック部分の一部、ニス、
- ・被爆者感情に配慮し、ニスは茶色系の色で仕上げる予定（赤・オレンジ色系の色は炎や血液、ヤケドを連想させてしまう恐れがあるため、昨年は黄色系の色で仕上げた）
- ・シダレヤナギの爆心地からの距離は、広島市ホームページから引用『被爆樹木リスト』（平成 31 年 4 月 1 日現在）<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html>

【被爆樹木、埋葬地樹木の採取と、それを素材の一部に使用したチェロ制作工程の様子】



被爆シダレヤナギ（中区青少年センター西側）と約 240m 離れた原爆ドーム遠景  
（被爆シダレヤナギから原爆ドームまでの距離は嘉陽がウォーキングメジャーで計測）



2017 年 12 月の養生作業における採取の様子、青○位置にあった腐食部分を切断したもの



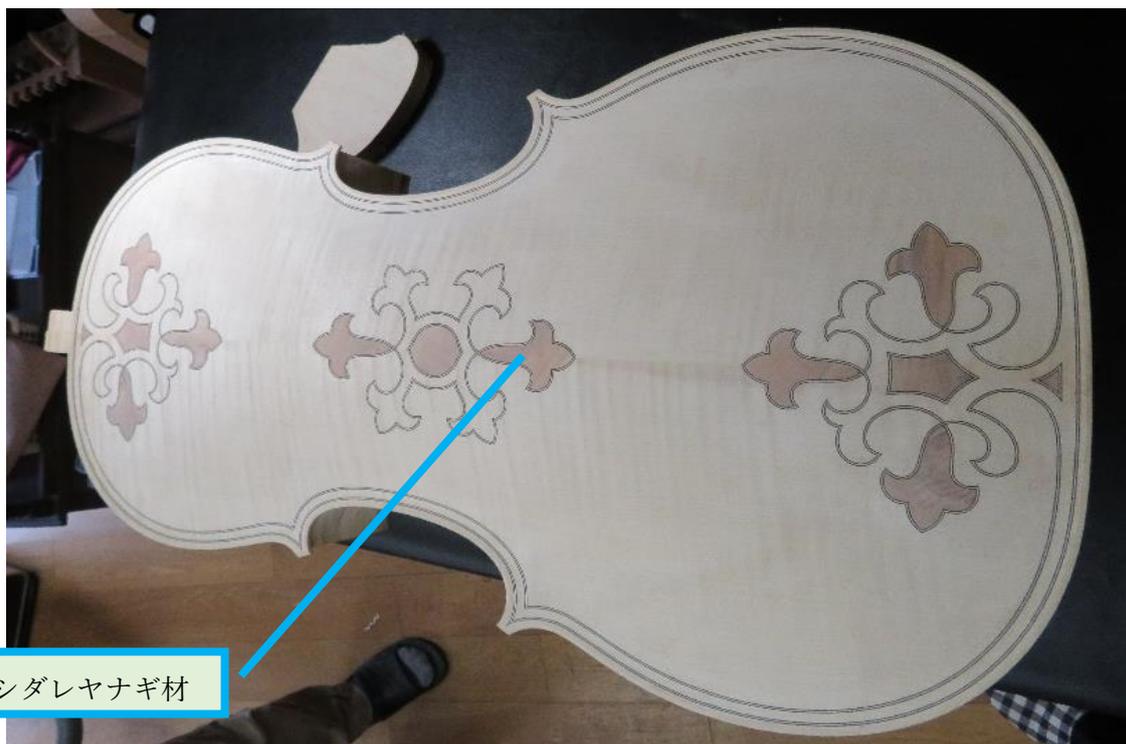
2018 年 4 月の似島小筏地区における原爆死没者御遺骨発掘作業の際に伐採したエゴノキ  
この樹木から 3~4m 離れた地点から被爆者とみられる御遺骨が発見された。



三原バイオリン工房にて、チェロ制作中の三原博志氏（2021年5月12日）



制作途中のチェロ（側板部分、まだ全体にニスを塗っていない状態（2021年5月12日）



背板の象嵌細工における茶色の部分13ヵ所にシダレヤナギ材を使用した。ニスはまだ塗っていない状態（2021年5月12日）



製材作業の様子（2021年5月12日）



製材中の材木

【広島陸軍兵器補給廠レンガの採取と、素材の一部に使用したチェロ制作工程の様子】



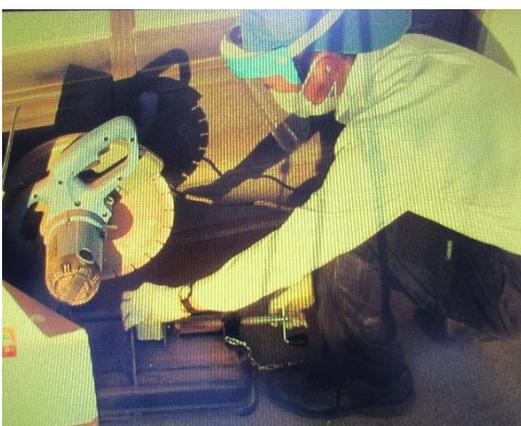
【工事の様子】

地下 1.5 メートル地点のレンガ材

霞図書館北側道路、左後方は献体者慰霊碑 (2020年1月15日)



レンガ材の採取の様子（2020年5月15日）



レンガ材の切り取り作業の様子と、約2ミリ厚に切り取ったレンガ材（2021年5月12日）



レンガ材切り取り作業の際に出た粉末を集めてフルイに通した状態（2021年5月12日）